

# IPU・31



子どもに学ぶ

児童福祉実習Ⅰに取り組んだ  
浅沼 慧さん  
[社会福祉学部福祉臨床学科/2年]と、  
子どもたち=仙北保育園にて

「きょうは、3歳児の受け持ちです。その場の状況を読んで言葉を掛けたり、静かに見守ったりするコツが分かってきました。いろんなあそびや運動、そして食事の時間などを通して援助の本質と方法を学んだ成果を将来に活かそうと思います」

保育士の資格取得に必須なのが、児童福祉実習Ⅰの履修です。この9月、浅沼慧さんは保育の現場に初めて接し、これからの学びへの意欲を一段と高めました。

子どもの世界への理解を深め、園のスタッフとも心を通わせ、収穫いっぱい10日間なのでした。



## ニュース・リリース

### 盛岡短期大学の公開講座

「地域の暮らしと文化を見つめる」という趣旨で、この4月から開催している公開講座の新メニュー。生活・人間・文化・コミュニケーションなどに関する幅広い教養を深められる機会です。

#### ■歴史のなかの宗教と文学 (岩手とイギリスから)

15～17世紀の岩手、イギリスを旅するように宗教や文学の特質を比較します。また往時の人々の思い、くらしぶりにも焦点を当てていきます。さまざまな文化財の写真や絵、資料を交える分かりやすい内容です。

- 11月11日(土) 13:30～15:00  
「ご本尊から寺院を見直す」
  - 11月18日(土) 13:30～15:00  
「イギリスの宗教改革と国際情勢」
  - 12月2日(土) 13:30～15:00  
「プロテスタントの思想と科学」
  - 12月9日(土) 13:30～15:00  
「演劇の政治性—宮廷仮面劇と英国史劇—」
- ※この号では、11月以降のプログラムを御案内します。

#### ■上手な衣生活の管理 —衣服管理とボタン付けのノウハウ—

講義と実技の二本立て。ボタンの上手な付け方を通し、衣生活に関する実践的な学習を深めましょう。

- 11月11日(土) 10:30～12:00
  - 11月18日(土) 10:30～12:00
- 裁縫具とシャツ(またはブラウス)1枚をご持参下さい。

◆ところ/岩手県立大学アイーナキャンパス  
盛岡市盛岡駅西通1-7-1  
いわて県民情報交流センター  
[アイーナ]7階

- ◆参加料/無料
  - ◆定員/それぞれ25名
- ※できるだけ2回連続して受講いただけるよう、お願いします。

◆お申し込みは、電話かファクシミリで下記へ  
岩手県立大学盛岡短期大学 事務局  
[TEL/019-694-2900]  
[FAX/019-694-2901]  
※受付時間/平日の9:00～17:00

### 平成18年度 岩手県立大学総合政策学部「総政セミナー in アイーナ」読書会

総合政策学部では、今年10月より「総政セミナー in アイーナ」を開催しています。11月・12月については、下記の「公開講座」と「読書会」のお申し込みを受け付け中です。

#### ■公開講座(第三回)

「法から見た行政  
—「お上」と私たちの正しい関係のために—」

- 【講師】  
岩手県立大学総合政策学部 助教授  
斎藤 千加子 [行政訴訟論、行政行為論]  
● 11月11日(土) 14:00～15:30  
◆申し込み締切り: 11月9日(木) 17:00  
◆定員: 50名程度

#### ■読書会(第三回)

「『学問のすゝめ』を手がかりに、  
近代日本の現実を考える」

- 【講師】  
岩手県立大学総合政策学部 教授  
三浦 黎明 [日本経済史、日本近代産業史]

【テキスト(各自でご用意ください)】  
福沢諭吉『学問のすゝめ』  
(講談社文庫版: 2006年/¥1,000)

- 12月2日(土) 15:00～16:30
- 12月9日(土) 15:00～16:30
- 12月16日(土) 15:00～16:30

◆申し込み締切り: 11月25日(土) 17:00  
◆定員: 10名程度  
※できるだけ3回とも御参加いただけるよう、お願いいたします。

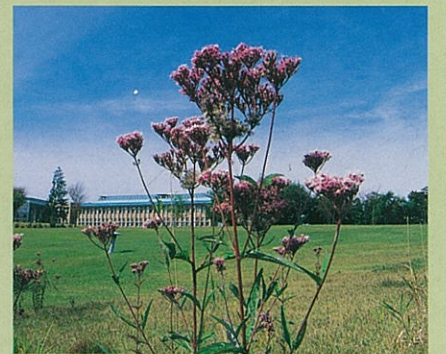
○ところ/岩手県立大学アイーナキャンパス  
盛岡市盛岡駅西通1-7-1  
いわて県民情報交流センター  
[アイーナ]7階

◆お申し込みは、電話で下記へ  
岩手県立大学アイーナキャンパス 事務局  
[TEL/019-606-1770]  
※受付時間/平日・土曜日の9:00～17:00  
※先着順に受講希望を承ります。  
※受講料は無料です。

## IPUカレンダー

- 11月
- 1日～7日 ● 推薦等入学試験 出願受付
  - 15日 ● 推薦入学試験 [宮古短期大学部]
  - 24日 ● 推薦入学試験 合格発表 [宮古短期大学部]
  - 25～26日 ● 推薦等入学試験
- 12月
- 1日 ● 推薦等入学試験 合格発表 [盛岡短期大学部]
  - 4日 ● 推薦等入学試験 合格発表 [四大]
  - 中旬 ● 夢灯り [主催/学生会]
  - 24日～1月7日 ● 冬季休業期間 [宮古短期大学部]
  - 25～27日 ● 高大連携 [ウインター・セッション]
  - 25～1月7日 ● 冬季休業

## キャンパス彩



秋晴れの屋どき。  
チツ、チツ、チツと草むらから虫の声。  
風に乗って届くのは、飛行機のエンジン音。  
カモが水に遊び、  
ガマの穂が揺れる調整池の畔で、  
天然色のドライフラワーを見つけました。  
ヒヨドリバナ(キク科)という名前です。

### あなたの声を

本学の広報誌「IPU」の紙面づくりに参加しませんか。記事に関する感想や意見、投稿、さらに本学への質問など内容も形式も問いません。FAXまたは電子メールで随時、受け付け中です。

## リエゾン LIAISON

昨年10月に本学がはじめて迎えた大連交通大学(中国・大連市)からの留学生5名が、1年間の留学を修了しました。今頃は、大連交通大学5年生として、相変わらずの高い向上心で勉学に励んでいることと思います。本学での1年間、ソフトウェア情報学部の各講座に所属しての学術研究や本学学生等との異文化交流などの多くの経験を積んだ、彼女達に、近い将来、本学・本県と大連・中国との「LIAISON」となってくれることを期待しています。(小野寺)

## IPU・31

発行/2006年11月1日

公立大学法人

岩手県立大学

研究・地域連携室

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子152-52

TEL/019-694-2000 FAX/019-694-2001

URL/http://www.iwate-pu.ac.jp/ e-mail/info@ml.iwate-pu.ac.jp



# はじまりは、異文化を知ること

盛岡短期大学の国際文化教育が平成18年度・特色GPに



ネイティブスピーカーの英語レッスン



アメリカのカルチャーが身近になった



日本海を隔てた韓国で異国を知る



フィールドに出て民俗を学ぶ (遠野)

国公立を合わせて331件の申請に対し、選ばれたのは48件。採択率14.5%の難関を、盛岡短期大学国際文化学科がクリアしました。ちなみに、短期大学士課程の枠へは64件のエントリー。選ばれたのは10件です。

「特色GP」とも呼ばれ、文部科学省が推進している「特色ある大学教育支援プログラム」。ここでのGPは、Good Practice (グッド・プラクティス) 優れた取り組みを意味します。さまざまな工夫を凝らして高い評価に値するカリキュラムや、学生への指導で際立った成果を挙げている事例などを指す言葉です。

少子化などを背景に、より競争的な環境が進む中、大学改革を反映して教育の質が高まるのは喜ばしいことです。特色GPは、各校における真摯な取り組みを選定し、それらを公共財として開示。ひいては、わが国の高等教育の活性化とレベルアップを促します。

## 世界と交感できる人材めざして

平成18年度・特色GPの一つに選ばれた教育プログラムは「自他の文化理解を柱とした国際文化教育——コミュニケーションスキルを育成しながら——」。

そのポイントは次の通りです。

- 多くの文化との共生が求められる国際社会で、早期の異文化体験を通して学習への確かな動機を養う。「国際文化理解演習Ⅰ・Ⅱ」(1年前期・後期/選択)に参加する学生はアメリカまたは韓国へ向かい、現地の大学で学んだりホームステイを体験したりします。
- PCS (パーソナル・コミュニケーション・スキル)

の育成。自己表現力、日本語運用能力を高めるのが目的です。読み解く、問題・課題を発見する、主体的に考えたり論じたりする、思考を文章に表す、といった目標を掲げます。

●GCS (グローバル・コミュニケーション・スキル) の育成。TOEICの得点で習熟度別クラスを編成し、実践的な英語力とプレゼンテーションスキルを高めます。また情報処理能力の習得も。※TOEFLで国際文化学科は全国の4大・短大の平均点を超えています。

●自他の文化理解の深化を図る。西洋・アジア・日本(地域)という多様な文化領域を横断的に結びつけて学んでいきます。自文化理解(自己理解)を基盤とする他文化理解(他者理解)に向けて「文化と思想」(文化研究法)「文化演習」(社会論)「社会論演習」などの科目を系統的に履修します。

異文化体験から日本語運用能力や英語運用能力、情報処理能力を高める学習意欲を引き出し、学生が主体的に自他の文化理解を深める総合的学習を目指すこの取り組みは、最も有効で他大学の参考になる優れた事例であると、採択理由で高く評価されています。

国際文化学科の取り組みは全国各地のフォーラムで紹介されるほか、文部科学省や本学のWebサイトでも発信されます。また内容の拡充と教育効果の向上に向け、2カ年で計1,500万円の補助金が交付される運びです。

◆お問い合わせ先  
盛岡短期大学 学部事務室  
TEL/019-694-2900

# ありがとう、IPU はじめまして、IPU

修了式と入学式——大連交通大学からの留学生

8月4日、大連交通大学(中国・遼寧省)からの特別聴講学生5人が修了式に臨みました。本学との間で国際交流協定を締結した後、学生交流の第一弾として昨年10月、ソフトウェア情報学部が迎えた留学生たち。それぞれ、希望する専門分野の講座に所属して学業に励むとともに、学生や教職員と交流する機会にも積



極的に参加しました。「皆さんのような若い世代が、これからの日中の絆を建設的に深める取り組みの主役となるはずですから。そのために欠かせないのが相互理解と信頼です。有為なる勉強を通して、あるいは当地での暮らしを通して、いろいろな糧を得たり日本のさまざまな面を知ったりしたことと思われまします。そのような得られた成果を各自の将来へ活かすとともに、未来志向で日中の懸け橋を務めるよう心から期待しています」

と、谷口学長がメッセージを贈りました。これを受け、修了証書を授与された留学生を代表



して王立璋(オウ・リツイ)さんが挨拶。キャンパスでの日々を振り返って思い出や感謝の気持ちを述べるとともに、帰国後の学生生活に向けた抱負などを力強く述べました。

なお、大連交通大学から新たに迎えた特別聴講学生の入学式が、10月2日に行われました。5人の受け入れ学部は、前年度と同じくソフトウェア情報学部です。

## 開学から広がってきた 献血の輪

お披露目します、感謝状と記念品



献血への理解と協力を感謝の気持ちを表し、岩手県内の諸団体を称えるセレモニーが盛岡市中央通のエスポワール岩手で開かれました(7月28日)。

本学からは、細江達郎教育・学生支援本部長が出席。各地の事業所など表彰団体の代表、そして保健医療関係者らが集まった会場で、岩手県知事及び日本赤十字社岩手県支部長からの感謝状(平成18年度)と、記念品の花器を贈呈されました。

平成10年の開学から、1年も欠かすことなく年に数回の学内献血を行ってきた本学では、献血を推進する学生のボランティア活動が盛んです。このたびの表彰は、さらに教職員も含め、献血への全学的な取り組みが継続されてきた点を高く評価されたものです。

## 職場訪問

実習教育開発室 [社会福祉学部]



## 人のつながりが宝です。

ソーシャルワーク現場実習、児童福祉実習、介護福祉実習、精神保健福祉援助実習など。リアルで実践的な現場体験も、学生の成長を促していきます。

さまざまな実習の企画から連絡調整・指導・研究というように、ひと続きの幅広い内容に携わっている実習教育開発室。この専門セクションを担うスタッフは、全員が福祉現場での実務経験者です。

教員をはじめ、実習の主役である学生とのコミュニケーションに努めています。質問に答える、資料を提示する、あるいは事後の報告を受ける…、といった場面が日常的に見られます。また県内外200カ所にも上る実習先の開拓に取り組んだり。このように、人と人とのつながりが実習教育の充実ぶりに反映されます。



# 世界を見る、世界に臨む

## アイーナで、小和田恒氏の講演会

公開講座の一環として、今年度2回目の国際講演会が開催されました(7月29日) いわて県民情報交流センター「アイーナホール」。

満席となった会場では高校生、大学生など若い世代の姿も目立っていました。国や地域という枠を超え、社会の相互運関が進んでゆくグローバルゼーション。こうした時代性への高い関心を裏づけるかのよう、聴衆の視線は壇上に注がれました。



視することの偏り、そして他国に考え方を押し付ける硬直した姿勢の危険性を指摘しました。

続けて「さまざまな局面で相互依存が深まる国際社会の一員という意識をもっと強く持つべきだ」と、未来指向の日本人像を提言。異質な存在を受け入れて敬意を払うこと、ひいては共生の思想を地球規模で実践することが大切だと結びました。

また「アジアにおける地域統合と日本の役割」と題し、谷口学長との対談も。

将来を展望する共通の基盤を、なかなか見出しがたい東アジア。その一体感を強める方策として、まず経済の関係強化を図ることが有効だ。このような提起に対し、小和田氏は、ヨーロッパの通貨統合を先例に挙げて「アジアにおける国際法とも言うべき価値やルールを作る作業が、現実的な出発点となるだろう。当面の政策課題とリンクさせ、環境・科学技術・人材などに関する交流を進めるのも実効性が期待される」と述べた。

# 北東アジアの未来を探ろう

## NEASE-Netの第1回フォーラム

ことし1月、全国の研究機関・大学・研究者の横断的な組織として発足したのが「北東アジア研究交流ネットワーク」です。

外交・資源・環境・経済など多くの分野で複雑な利害が絡み合い、このような一方で、隣国同士の間関係強化に向けて期待が高まる北東アジア。NEASE-Netとも呼ばれる同ネットワークは、さまざまな角度からの研究成果を発信したり、それらを政策提言に結びつけたりすることを指向しています。代表幹事に本学学長 谷口誠が就任。9月16日、初めてのフォーラムが各地の会員や一般参加者を迎えて開かれました。

まず、王毅氏(駐日本・中国特命全權大使)が「北東アジアコミュニティの構築に向けて」と題した基調講演で熱く語りかけました。日中韓という三つの国が隣人としてパートナーとして、平和的な秩序を構築することへの期待感。より自由な貿易体制の実現、環境保護などに向けて協調と人的交流、さらに政治的な関係の改善が望まれること。

こうした論点に基づき、未来を展望する明快なオピニオンが述べられました。



また、福川伸次氏(日中関係学会会長)は「北東アジア地域協力の成長力と日本の役割」という講演の中で「アジアと、どう付き合うか。その明確なビジョンを描き、具体的な分野や方法を示す道筋が望まれる。たとえば電気・電子産業が域内分業を推進する、あるいはコンテンツ産業やサブカルチャーの開も有望だ」と指摘しました。

最後のラウンドテーブルでは研究者、アナリスト、ジャーナリストら20名を越す会員が登壇。外交・経済政策・国際交流・比較文化など、それぞれの見地から現状を伝える報告や、建設的な意見が相次ぎました。

## 留学生サロン



### 異文化を知り、夢は広がる

大連交通大学から最初に迎えた留学生の一人です。学部生活を通し、世界水準の研究を志す気持ちで固まりました。「将来は、イギリスのような英語圏を拠点に活動したいと思っています。音声データをデジタル化して、リアルタイムで別の音声へ埋め込むステガノグラフィという技術が探究心の対象です。電子情報通信学会に入り、9月半ば、東京で学会発表を行いました」

専門の勉強に励む一方、剣道や茶道を習って日本文化に親しみ、礼の精神を学んだ黄さん。岩手での留学体験を綴り、本を出版するプランも温めています。

## 大学コミュニティと、いかに向き合うか

入試をはじめ学生生活に関する事項、あるいは卒業後に向けた進路指導。さらに、各学部で実施している教育活動との協働や、図書館(メディアセンター)の運営など。大学教育に関する多くの領域を包括的に扱うのが、教育・学生支援本部です。このような総合化した組織は昨年度、

が、それへの関係者の係り方は、いくつかに分かれるような気がします。

問題を提起して主体的に関わり、一緒に解決に向けてアイデアを出し、一緒に行動しようという人たち。これとは対照的に、問題は訴えたけれど「解決を図るのは他人だ」という態度の人たち。また問題そのものを感じない人、さらに無関心と言え層も少なからず存在します。他者への委任型や無関心派は少数でも、その

## 全方向へと加速度的に変化します。未来への生成過程の今を大切に

以前から指摘されてきた不適切な駐車、他者の迷惑を顧みない喫煙マナーなどについては学生会や関係委員会の意見を伺いながら対応を図っています。しかし、やみくもに取り締まれば解決するという単純な状況ではなく、当事者の自覚を促す努

わゆる常識に関する指導・教育をも大学が受け持つとしたら、お寒い限りです。けれどこうした現実と向き合い、しっかりと対処していく姿勢も昨今の大学人には必要なようです。

「今、ここで」(Here and now)という言葉があります。自分の真実の姿は、この先や卒業後の社会生活にあるのではなく、今まさに生きている日常生活の中にあるという意味も含んでいます。

# 今、ここに在る意味を問うてほしい。

## 細江 達郎

教育・学生支援本部長



公立大学法人への移行を期に発足しました。スタッフ一同、心を新たにサービ

と支援に臨んでおります。教職員や学生から寄せられるアイデアや指摘は、さまざまな形で運営に活かされています。

日常的な業務とは別に、こちらには学生生活や教育活動を巡る多種多様な問題が持ち込まれてきます。一つ一つに多くの関係者が介在しているのは、言うまでもありません。取り扱う内容にも拠ります

影響は小さくありません。

コミュニティは、その成員が共通利益と福祉のために参加することで機能を発揮します。共有地の悲劇は、自己の利害を中心に動く人々が多数を占めたときに起こります。その際、周囲の人が、どれくらい協力者であるかの見積もりがコミュニティの行く末に影響を与えます。少ないと見積もると、利己的な傾向が強まっていきます。多いと見積もると、いつそう健

力も含め、全学的かつ実効性に裏打ちされた対処の方法が問われます。

たとえば車椅子マークの場所に駐車するのを何ら恥じないとしたら、それは人間としての品格の問題に行き着くでしょう。また、挨拶しない(できない?)学生の存在も取り沙汰されます。企業関係の方々と懇談では、こうした最低限のマナーを身につけないまま社会人生活へ入っていく若者の現状を嘆く声も多く聞かれます。い

人間の一場面である点も間違いない。過去や現在の状況だけでなく、人間の可能性は制限されません。教員は学生の限らない可能性を引き出し、すばらしい開花の例を数多く体感しています。みずからの世界を広げる主体性を持ち、さまざまな体験や出会いを積極的に求めていく学生像の体現が、自己実現へ続きます。

しかし、「今」という時間は、未来へ向かって生成過程にある (process of becoming)

人間の一場面である点も間違いない。過去や現在の状況だけでなく、人間の可能性は制限されません。教員は学生の限らない可能性を引き出し、すばらしい開花の例を数多く体感しています。みずからの世界を広げる主体性を持ち、さまざまな体験や出会いを積極的に求めていく学生像の体現が、自己実現へ続きます。

人間の一場面である点も間違いない。過去や現在の状況だけでなく、人間の可能性は制限されません。教員は学生の限らない可能性を引き出し、すばらしい開花の例を数多く体感しています。みずからの世界を広げる主体性を持ち、さまざまな体験や出会いを積極的に求めていく学生像の体現が、自己実現へ続きます。

# 思考と志向



組み込みソフトものづくり塾

製造業を支える頭脳を育て。

マイクロプロセッサに搭載され、さまざまな電子機器を制御する組み込みソフト。ハードウェアとソフトウェアが融合する技術分野は、わが国の製造業を支える基幹要素の一つです。しかし著しく多様化・高度化するテクノロジーを支える人材の不足が、すそ野の広い産業界で指摘されています。そこで、マンパワーの充実を通して岩手の産業振興にインパクトを与えようと、この夏も「組み込みソフトものづくり塾」が開講されました。

IT企業の社会人も学生も

7月31日から9月8日まで、プラクティカルで密度の高いカリキュラムが展開されました。週末と盆休みを除く毎日、システム実習室が会場です。ベーシックなレベルから始めて組み込みソフト技術を修得したい人のために、全体受講コースとしてプロセッサコース・リアルタイムOSコース・制御コースを段階的に学べるよう配慮しました。

受講者は延べ33名。県内のIT系企業に勤める4名の若手社員は「スキルアップ研修の成果を業務に役立てたい」と意欲的。また岩手大学工学部から2名、専門学校から3名が参加。さらに、24名が基盤系もしくは情報システム系を専攻するソフトウェア情報学部の学生です。

プログラムを組んでみよう

一心不乱にキーボードを叩いたり、テキストや参考文献を真剣な表情で読み込んだり。そんな受講生に対して教員、あるいは大学院生らのTA(ティーチングアシスタント)が直接的なアドバイスや説明を行う場面は、そう多くありません。「まず自分で作って動かすことに意義がある。講義形式ではなく、経験重視の内容が一番だ」

こう唱える曾我正和・執頭(組み込み技術研究所長)の方針で、基本的な仕様・構造に関するプラットフォームを理解してCPU(中央演算装置)設計に取り組み実習が重視されました。ある特定の機能に特化限定したシステム構築に臨むための前段階として、汎用的なノウハウとスキルの習得に主眼を置いたというわけです。

「かなりの集積が期待される自動車産業のほか、電子・機械などの分野で活躍する人材のポテンシャルを高める有効な方法だと思っています。さまざまな開発案件に対応できる素地をオールラウンドに養うことで技術者のモチベーションはアップして、企業力の底上げも図られます。我々の考えに賛同する地元の産業界から「がんばれ!」という温かい声が届いています」(曾我塾頭)

また8月25日朝のNHK総合チャンネルの「おはよう東北」に取り上げられたことは、多くの方がご承知のとおりです。

学際的にスタッフを集めて

企業レベルの企画ではなく、こうした指向を本学が実践する意義は、さまざま



な知的資産をフレキシブルに活用できる点にも見出せます。

組み込みソフトはソフトウェア技術、メカトロニクス、エレクトロニクスが融合する学際的な領域なので開講に際して、それぞれの分野に秀でた教員が二元的な態勢を組めるのです。また、TAという立場で協力する学生も頼れる存在です。より分かりやすく教えようと努めることで専門性が磨かれ、それぞれの研究活動にも良い刺激が与えられる。そんな好循環が生まれています。

組み込みソフトものづくり塾は、来年も開講される予定です。学内、学外を問わず受講希望を積極的に募ります。さらに学部教育の新展開と深化という観点で、一連の内容を専門科目と連動させる構想が検討されています。



ボールは、投げ返してください。

特定非営利活動法人 やませデザイン会議 議長

貫牛 利一



貫牛 利一 [かんぎゅう としかず] 1961年、野田村に生まれる。地元の社会福祉施設、観光施設などに勤務した後、2006年4月、やませデザイン会議の議長に就任。野田村青年会長、岩手県青年団体協議会理事なども歴任。(財)都市農山漁村交流活性化機構・GT認定コーディネーター。

学外とも協働したいから

駆け足の春が過ぎ、陽光が差す北岩手の短い夏。オホーツクの海を渡って吹きつける冷たい北東の風が、きらめく季節を奪います。

たびたび冷害をもたらす風が、この地域の人々を悩ませてきた元凶です。「やませ」偏東風が通り抜けると、せつかく育った作物は冷え、やがて不作の秋が訪れます。ある時は飢饉をもたらし、忌むべきものとして語り継がれた「やませ」が、久慈地域を象徴します。

このような歴史の末裔として私たちは現代を生きています。「行政区の壁を乗り越え、地域の活性化を図りたい」という想いを集めて「やませデザイン会議」が誕生したのは平成4年。それ以来、草根の発想を握りどころに地域デザインを指向し、ビジョンの策定、人的ネットワークづくり、そして環境・教育・観光などに関する情報発信などを展開しています。

実践への「知」を得たいから

北から洋野町、久慈市、野田村、普代村。私たちが、これら4市町村の連携を軸にして地域づくりを進めるのは「そこに自分たちの生活基盤が在り、ふるさとに寄せる純なる気持ちの原風景が広がっている」からです。とりわけ、東北新幹線が青森県八戸市まで延伸した歴史的なエポックを機に、この近接エリアにも「もっと新しい風を吹かせよう。アクションを起こそう」と、さらなる気運が高まったのは事実です。

仲間が仲間を呼び、活動の輪が広がってきました。積年の願いだった交通インフラ整備の恩恵を身近に感じられるようになり、たとえば一つの展開軸として、観光振興が大きなテーマに浮上しました。

ここで言う観光は、住民が共有できる地域のアイデンティティーに基づいて景観・味覚・物産といっ

日常を創り変えたいから

岩手県立大学に望むこと。それは、ある局面では破壊的とも映るであろう、インパクトに富み創造の力です。私たちの意識下にも働きかける、知のエキスの提示にも期待します。

活動の主体となる住民が、それらの真意を咀嚼(そしゃく)して吸収し、明日のために活かしていきま

す。ややもすると内向きの論理に傾きがちで、なかなか次の一手が見つからない現場に外部からの視線を注ぎ、ひらかれた大学らしい存在感を示してほしいと思います。

こちらが抱える具体的な問題点やテーマに対し、知の所産をアレンジしていただく流れが見えてきます。そのためには、私たちが確かな現状認識を持ち、ひいては問題意識や目的意識を尖鋭化させて大学との接点を深める姿勢が欠かせないと自覚しています。

住民レベルの疑問や想いに耳を傾け、応えください。人を「その気」にさせる示唆をください。大命題ではなく、ちょっとした困り事をクリアする知恵とかヒントとかでも良いのです。大学と自律的に関わるべく、さまざまな意見の集約を経て意思を携え、共通の場を持ちたいと思います。そういう意味で、この7月に開催した「地域づくり実践フォーラム」は記念すべき第一歩でした。



# 究める気持ちに素直です。

## 地方に居ても先端的だ

ふだん心掛けていることは「納得するまで。解決するまで」。気になったら、とことん突き詰めないと落ち着かない。「なるようになる」という楽天的な思考回路も備わって、物事は良い方向へと働く。田中さんは、そんなタイプの大学院生である。

通信インフラが発達し、地方に居ながらにして先端的なメディアを使いこなせる時代状況が「あえて都会の大学へ行くほどでもなかった」と言わしめる。もちろん「それで正解だった」とも。

地元で未来指向の勉強ができる。このように確信して、盛岡市紅葉ヶ丘の自宅から通う生活が始まった。

## 教育に活かすIT

学部生の頃から教育工学を専攻してきた。マルチメディアやITを活用する学習支援システム、たとえば「eラーニング」の仕組みを構築するためのソフトウェア方法論が対象である。さまざまな学習機会の提供、より高い学習効果が見込めるメニュー（コンテンツ）の開発、教わる側・教える側が双方向的にコミュニケーションを図

れるインタフェイスの実現など、使い勝手や運用メリットをユーザーの視点に踏み込んで追求する手ごたえは大きい。「ひろい意味では、社会情報システム学の一翼を担う分野です。文字通り、社会とソフトウェア情報学との接点を探って具体的なテーマを立て、研究を進めていきます。こう在るべき、こういうのも良いな」と提案・発信していくスタンスも明確です」

## 進むべくして大学院

4年次の1月。田中さんは、遠く長崎で開かれた学会（主催：日本教育工学会）で発表に臨んだ。内容は「LCMS」（ラーニング・コンテンツ・マネジメント・システム）について。eラーニングのシステムを運用する際、コンテンツの保存・蓄積・ダウンロードを効率的に行える技術だ。

物おじしない性格ゆえ、かなり自然体で壇上に上がった。研究者が一堂に会する場の空気に触発されて「もっと勉強したい。だから大学院へ進む」と、自らの意志を強く確かめられた点も収穫である。

## あの学際プロジェクト

そして大学院1年次からは、全学的に推進されている《地域専門職高度化プロジェクト》のメンバーとして活動してきた。

平成17年度その手はじめとして「看護職者のための遠隔教育プログラム」の試作・開発がスタート。学外からも高い関心が寄せられるプロジェクトのリーダーを、武田利明教授（看護学部）が務める。

遺伝看護学に関するコンテンツを制作することになり、田中さんは、講義などの様子を動画映像として撮影・編

集するスタッフを務めた。システム構築にサーバの運用にと、専門的な知見を持つている強みを活かし、学部横断型コラボレーションを推進する学生有志の一人である。

## 頭脳のタフネス

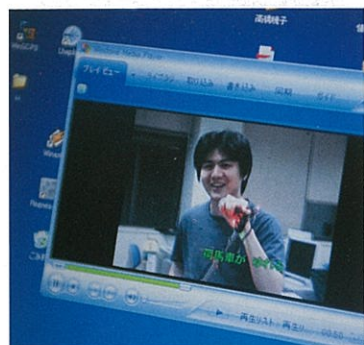
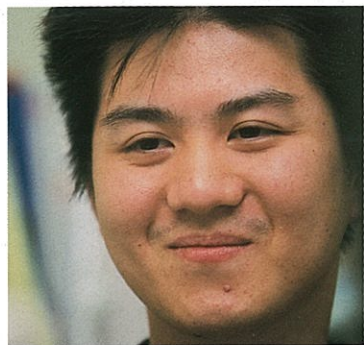
オープンソースで、いろんな人が使えるように。こんなふうな配慮を重ね、eラーニングのサポートシステム開発が佳境を迎えている。また、ことし暮れに学会発表（情報処理学会）する予定の論文を作成中で、しばらく多忙が続く。指導教員である阿部昭博教授へ、構想は伝えた。あとは運用レベルのアドバイスを仰いだり、細部をチェックしたりして仕上げに入る。

熱中のみならず深夜に及ぶのは珍しくないが「忙しいのは苦になりませんね」と、快活に言い切る田中さん。相撲部屋に例えるなら兄弟子として、

おなじ研究室に集う後輩の面倒を見るのも大切な役割だ。さらに、研究室のサーバ管理も……。いろいろ話していると「実は、うちの学部のWebサイトを全面的にリニューアルするプロジェクトにも関わっています」。

つまり、ソフトウェア情報学研究科を特徴づけるPBL「Problem Based Learning」として実習型学習にも動しんでいるとのこと。コンテンツ制作、サーバの設計、セキュリティ体制など内容は広い。

チーム単位で対象を定めて企画・工程計画・予算を組み、教員による審査をクリアすると研究費が交付される。「そこに存在する」実践課題と対峙して問題点を抽出、やがて解決方法が導き出される。机上では味わえない臨場感が、探究へのモチベーションを熱く駆り立てている。



ソフトウェア情報学研究科 博士前期課程/2年

## 田中 裕也



## 暮らしの場面

### ●講座研究室での僕

ワークステーションの周りに文献ほか必要なアイテムを、どっさり揃えています。あれこれ講座の用事を済ませ、PBLで取り組んでいるWebサイトの修整作業などに区切りを付け、午後からがマイペース

の時間帯。後輩を誘って夕食を済ませ、夜中まで残る日も多々あります。うちの講座は「自主・自由」がモットーで、それだけ結果を厳しく問われます。ちゃんと勉強、ちゃんと生活……。こういう習慣が大切です。



日本を知るためにも世界を知ろう。

盛岡短期大学部 / 教授 吉原 修

「海の内」から見た日本は繁栄の一方で、さまざまな問題点や矛盾を抱えています。エネルギー・環境・食糧のこと、異文化との共存……。これらを世界的な視野で捉え、現状を知ったり未来を展望したりする必要性は疑う余地がありません。歴史過程も踏まえ、国際社会を捉える、いろんな眼を学生と共有したいですね」

マダガスカル大使を務めた後、教える仕事へと転身した吉原先生のバックグラウンドは、34年に渡る外務省勤務で培われました。赴任した順に国を挙げると、フランス、アメリカ、イラン、スペイン、エジプト、アルゼンチン、マダガスカル。また、国連の日本政府代表部に勤務したキャリアも。

この4月から、学生と一緒の時間を過ごしています。TPOに応じた教授法のコツを会得しようと、新たな研鑽の日々でもあります。実践で鍛えたスキルを活かして担当するのが「英語表現A」。読解力と文章力のトレーニングを通して「日本語と異なる言語を学ぶ意義と喜びを感じよう」と、学生にメッセージを送り続けます。

また、後期から担当するのが「国際関係論」。リアルタイムに見聞きしてきたことを含めて国際機関の役割、各地の情勢、南北問題の現状、言語や宗教と民族問題、さらに外交の機能など多面的でボーダーレスなテーマが展開。ニュートラルな観点で、わが国の位置づけも捉えます。



よしはら おさむ

京都大学法学部を卒業後、外務省へ、ロサンゼルス日本総領事館・首席領事、アルゼンチン公使、マダガスカル大使などを経て2006年4月より、盛岡短期大学部教授。発展途上国の位置づけを明確化したり、貧困、政治的な不安定要因にも視線を注いだりして、オリジナルのパラダイムで国際関係や外交の研究を進める。「英語は海外とつながるための道具であり、国際関係を学ぶことで、世界の見取り図を視野に収められます。と同時に、世界の多様性を体感できます」

新しい風を吹かすのが好きだから。



滝沢村役場 経営支援部 経営企画課  
石田 智行さん  
ソフトウェア情報学部～ソフトウェア情報学研究科  
博士前期課程 [平成18年3月修了]

行政マン1年目を新鮮な気持ちで過ごしています。率直な感想は「毎日面白い。すべてが勉強でもあります」。学生時代とはまったく異なる環境に、仕事へのモチベーションが駆り立てられます。新人らしからぬ落ち着きと仕事ぶりを見せる石田さんは、はやくも同僚や上司から一目置かれる存在に。物おじしな性格が、スムーズに職場へ順応できた要因でしょう。

はじめての配属先となった経営企画課は、中長期的なビジョンに基づく総合計画を推進する部署です。より創造的で活力に富む村政への目的意識を共有したり、さまざまな意見を交わしたり。そのようにして深まる住民とのパートナーシップに、地域社会の明日を感じています。だからこそ、一つ一つの判断や行動を大切に、

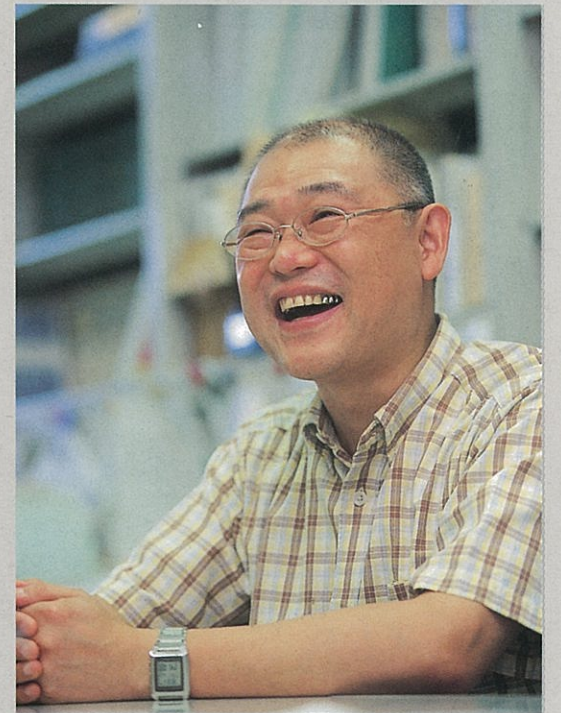
分析や検証に臨む視点は鋭く、そして自分なりの意見を持つ、といった心がけを掲げています。

「ソフトウェアの分野とは、明らかに就職しました。人との関わりを通して可能性を広げたい、公の立場で社会に貢献する職業に就きたい、という理由で役場職員の採用試験を受けました。正直なところ、学業も仕事も1丁まっしぐら、という生き方に疑問を覚え、別の価値を求めた私が存在したのは確かです」

情報環境デザインという領域を、もっとと究める。そんな意志を固めて来年4月、ソフトウェア情報学研究科博士後期課程へ進む石田さんは「学部時代からの続きです。働きながら、自分への投資に励みます」

“にんげん”の側で経営を論じたい。

総合政策学部 / 助教授 岡田 寛史



おかだ ひろふみ

同志社大学大学院商学研究科 (博士後期課程) 商学専攻を経て1989年4月、旧・盛岡短期大学の講師に。助教授を務めた後、現在に至る。商学修士。専門分野は経営学・経営管理論・労務管理論で、人的資源管理・職務再設計・労働過程論が主なテーマ。日本経営学会、日本労務学会、労務理論学会 (理事/2003年6月～) に所属。環境変化、経営戦略との関連を重視し、人事・労務管理における人的資源のマネジメントに対する考察を展開している。

人材という経営資源の本質を、どう捉えて活かすのか。あるいは働く主体にとって、本当の自己実現や生きがいの創造とは、何を指すのだろうか。せめぎ合う、ふたつの視座が岡田先生の経営学を「にんげん」に立脚させる基底的な要因です。

ゆえに、モノと資金の使い方も含めた手法の構築・展開が直接の対象ではありません。人的マネジメントの多様な形態(管理)に焦点を当て、それらの意義もデメリットもあぶり出し、経済社会の在り様を写す現象として考察を加えていきます。

「企業・集団の行動に潜む種々のメカニズム、さらに人間らしさ、働くこと、生きることへの尽きない興味や学問の原点です。どれを、どんなスタンスで、どのような価値基準で論じるか。さまざまな解釈が生まれ、まして絶対的の答には辿り着けないのが、経営学の奥深さだと思います」

固定観念は捨て、疑問や反証を示しながらテーマを縦横無尽に追究してみよう。そんな岡田イズムに触発されたゼミ生は「労働」を巡る今日の状況を注視しているようです。生産手段・職場環境からの疎外、ワークシェアリング、契約社員・パートタイマーの増加、さらに仕事観の分化、成果主義の功罪など。理論研究の一環として文献、時事ニュースの検索を勧めるのは、メディアや情報を活かす基礎的なリテラシーの定着を図るためです。

知識じゃなく、考え方を教わった。



川口印刷工業(株) 営業2部 営業5課  
富樫 昭典さん  
総合政策学部～総合政策研究科  
博士前期課程 [平成16年3月修了]

セオリーや経験則を組み合わせ、必要ならば価値判断も交えながら戦略ないし戦術を自在に織り成していく。それが、営業という職種に関する富樫さんの考え方です。

上手くいくケースもあれば、その逆もあります。場数を踏むことによる学習効果を活かして業種・業態、もしくは法人か個人かを問わず、社会との接点を幅広く持てる仕事だと実感を深めています。しかも、ニーズの把握やプランニングに始まるモノづくりの成果品として、印刷物が残されます。お客様との共同作業の結果は名刺、ポスター、上製本の書籍などさまざま。

「費やせるコストには限りがあるので、いかに効率的に使うか。ベストの形に近づけていくか。情熱とアイデアとプロデュース能力の発揮が、営業の本質を捉える眼力とセンスが欠かせません」とも。さまざまな角度から社会現象にアプローチして、問題発見・問題解決を図る。こうした総合政策の手法を磨いた学生時代の成果は、社会で生きていく基礎となりました。主として学んだ行政学や経営学で身につけたのは、断片的な知識の域を超えた、実践指向の揺るぎない姿勢です。かけがえのない糧を育むことができた環境に、感謝の思いは尽きません。

セオリーや経験則を組み合わせ、必要ならば価値判断も交えながら戦略ないし戦術を自在に織り成していく。それが、営業という職種に関する富樫さんの考え方です。

上手いケースもあれば、その逆もあります。場数を踏むことによる学習効果を活かして業種・業態、もしくは法人か個人かを問わず、社会との接点を幅広く持てる仕事だと実感を深めています。しかも、ニーズの把握やプランニングに始まるモノづくりの成果品として、印刷物が残されます。お客様との共同作業の結果は名刺、ポスター、上製本の書籍などさまざま。

「費やせるコストには限りがあるので、いかに効率的に使うか。ベストの形に近づけていくか。情熱とアイデアとプロデュース能力の発揮が、営業の本質を捉える眼力とセンスが欠かせません」とも。さまざまな角度から社会現象にアプローチして、問題発見・問題解決を図る。こうした総合政策の手法を磨いた学生時代の成果は、社会で生きていく基礎となりました。主として学んだ行政学や経営学で身につけたのは、断片的な知識の域を超えた、実践指向の揺るぎない姿勢です。かけがえのない糧を育むことができた環境に、感謝の思いは尽きません。